



## **JCR ファーマ株式会社**

2022 年 3 月期決算説明会（プレゼンテーション）

2022 年 5 月 12 日

## イベント概要

---

[企業名]	JCR ファーマ株式会社
[企業 ID]	4552
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 3 月期決算説明会（プレゼンテーション）
[決算期]	2021 年度 第 4 四半期
[日程]	2022 年 5 月 12 日
[ページ数]	33
[時間]	16:00 – 16:40 (合計：40 分、登壇：40 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	3 名 代表取締役会長兼社長 芦田 信（以下、芦田） 常務取締役 研究・経営戦略担当 藺田 啓之（以下、藺田） 管理本部 経理部長 太田 義博（以下、太田）

---

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 登壇

---

芦田：芦田でございます。平素より、当社への格別のご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。本日の決算説明会は、2022年3月期の決算概要と事業報告について、後ほど各担当者から、詳細をご説明いたします。

2022年3月期の決算は、10期連続の増収で、売上高、各利益ともに2期連続で過去最高を記録しました。アストラゼネカのワクチン原液の製造は、契約のとおり無事に製造を完了することができました。アストラゼネカワクチンの原液の対価を除いても、増収増益となり、過去最高となりました。

また、イズカーゴは、2021年5月に、日本で販売を開始し、売上は当初の予想を上回る結果を得られました。今後のさらなる市場への浸透を期待しています。また、武田薬品工業とは、2021年9月にJR-141のライセンス契約、2022年3月には、J-Brain Cargoの遺伝子治療に関する共同研究開発契約を締結しました。2023年3月期については、中計「変革」の最終年度、ガイダンスで示した売上高、営業利益は、2022年3月期で達成いたしました。重要経営課題について、引き続き継続して推進していきたいと思っております。

また、われわれは、SDGsの理念の下、これまでの取り組みをさらに加速、充実させることにも積極的に取り組んでおります。CO2削減については、10年以上前からハイブリッド車、電気自動車を導入。各工場でも、省エネに対策を実施しております。また、社員には、性別、年齢にかかわらず長く勤めてほしいという点から、働きやすい職場をつくっております。前年度の離職率は1.1%となっております。

わが社にとって、やはり今後、研究が非常に重要な課題だと思っております。2022年3月期の研究開発費は、71億円を計上いたしました。2023年3月期の研究開発費は、90億円を予定しています。J-Brain Cargo技術の進化、発展、またJ-Brain Cargoに続く、新たな基盤技術の開発に向けて、研究を加速していきたいと思っております。そのために、研究開発費はちゅうちょなく投入したいと考えています。

今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

---

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



**通期実績  
(2022年3月期)**
**売上高および営業利益、経常利益、当期純利益は  
過去最高の数値・業績を達成**

(単位：百万円)

売上高	: 51,082百万円 (前期比 +69.8%)
営業利益	: 19,933百万円 (前期比 +141.1%)
経常利益	: 20,512百万円 (前期比 +141.6%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	: 14,507百万円 (前期比 +110.5%)

- 主力製品：イズカーゴ®は期初予想を大きく上回る結果となった（3,003百万円）。グロウジェクト®は数量ベースでは増加したものの（+4.7%）、薬価改定の影響を受け前期比から減収となった。
- 販売・一般管理費および研究開発費は前年同期比で増加したものの、増収効果により各利益についても大幅な増益となった。

**太田**：経理部の太田でございます。2022年3月期決算概要につきまして、ご説明申し上げます。

当期は、過去最高の数値、業績を達成いたしました。売上高につきましては、510億8,200万円と、前期比69.8%増。営業利益につきましても、199億3,300万円と、前期比141.1%増。経常利益、こちらにつきましても、205億1,200万円と、前期比141.6%。当期純利益、こちらにつきましても、145億700万円と、前期比110.5%と、いずれも大幅な増収増益となっております。

主なトピックスといたしましては、主力製品、こちらにつきましては、当事業年度におきまして発売を開始いたしましたイズカーゴ、こちらにつきましては、当初予想を大きく上回る結果となっております。また、グロウジェクト、こちらにつきましては、数量ベースでは前期比4.7%の増加となっておりますが、薬価改定の影響を受けておりまして、売上高といたしましては、前期比では減収となっております。

また、販売・一般管理費および研究開発費につきましては、前年同期比で増加してはおりますが、増収効果によりまして、各段階利益につきまして、大幅な増益となっております。

**サポート**

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

連結	2021年3月期 A	2022年3月期		参考 予想 (修正後)
		B	前期比 (B-A)/A	
売上高	30,085	<b>51,082</b>	<b>+69.8%</b>	52,000
売上原価	7,812	<b>10,461</b>	<b>+33.9%</b>	8,300
売上総利益	22,272	<b>40,620</b>	<b>+82.4%</b>	43,700
販売・一般管理費	8,643	<b>13,511</b>	<b>+56.3%</b>	11,700
研究開発費	5,360	<b>7,175</b>	<b>+33.9%</b>	10,300
営業利益	8,269	<b>19,933</b>	<b>+141.1%</b>	21,700
経常利益	8,488	<b>20,512</b>	<b>+141.6%</b>	21,700
親会社株主に帰属する 四半期/当期純利益	6,892	<b>14,507</b>	<b>+110.5%</b>	15,400

対売上高	売上原価率	26.0%	20.5%	<b>△ 5.5%</b>
	研究開発費率	17.8%	14.0%	<b>△ 3.8%</b>
	営業利益率	27.5%	39.0%	<b>+11.5%</b>

(ご参考)

共同開発先による負担控除前の 研究開発費	5,856	7,671	<b>+31.0%</b>	11,080
-------------------------	-------	-------	---------------	--------

**◆営業利益 19,933百万円**  
 対前期+11,664百万円

2021年3月期	8,269
売上高	+20,996
売上原価	△2,648
販売・一般管理費	△4,868
研究開発費	△1,815
2022年3月期	19,933

**主な増減要因（前年同期比）**

- ・主に契約金収入およびAZD1222原液製造による売上高の大幅な増加  
+20,996百万円
- ・製品売り上げの増加に伴う売上原価の増加  
△2,648百万円
- ・人員増および製品売上に対するロイヤリティ・今期限りの手数料等による販管費の増加  
△4,868百万円

続きまして、決算概要につきまして、ご説明申し上げます。

売上高につきましては、510億8,200万円と、前年同期比69.8%の増と、大きく増加しております。それに伴いまして、売上総利益、こちらの方も406億2,000万円と、前年を大きく上回っております。

一方で、販売・一般管理費につきましては、135億1,100万円と、前年同期比56.3%の増。また、研究開発費、こちらにつきましても、71億7,500万円と、前年同期比33.9%の増となっております。

これらによりまして、営業利益につきましては、199億3,300万円、前年同期比141.1%の大幅な増益となっております。また、経常利益につきましても、205億1,200万円、最終利益につきましても、145億700万円と、前年同期比110.5%の増益となっております。

下に、対売上高につきまして、比率を記載させていただいております。売上原価率につきましては20.5%と、前年同期比5.5%のマイナスとなっております。また、研究開発費の比率につきましては14.0%ということで、前年17.8%に比べまして、比率といたしましては下がっているといった状況ではございます。営業利益率、こちらにつきましては、前年27.5%に対しまして、当期は39.0%ということで、11.5%と大きく上昇しているといった状況でございます。

右側に、主な増減要因を記載させていただいておりますが、まず、営業利益の増加要因といたしましては、売上高、こちらが前年同期比209億9,600万円増加しております。それに伴いまして、

**サポート**

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

売上原価につきましては、26億4,800万円増加になっております。また、販売・一般管理費および研究開発費が増加しておりますので、これらによりまして、営業利益につきましては、199億3,300万円となっております。

品目	2021年3月期		2022年3月期			参考 予想 (修正後)
		構成比		構成比	前年比	
グロウジェクト®	13,256	44.1%	12,945	25.3%	△ 2.3%	13,900
イズカーゴ®	-	-	3,003	5.9%	-	2,800
腎性貧血治療薬	7,087	23.6%	5,875	11.5%	△ 17.1%	6,400
エポエチンアルファBS注「JCR」	3,278	10.9%	2,876	5.6%	△ 12.2%	2,700
ダルベポエチンアルファBS注「JCR」	3,809	12.7%	2,998	5.9%	△ 21.3%	3,700
テムセル®HS注	2,441	8.1%	3,497	6.9%	+43.2%	3,200
アガルシダーゼベータBS点滴静注「JCR」	470	1.6%	711	1.4%	+51.3%	800
医薬品等合計	23,255	77.3%	26,032	51.0%	+11.9%	27,100
契約金収入	6,406	21.3%	10,571	20.7%	+65.0%	10,200
その他	18	0.1%	102	0.2%	(5.2倍)	0
AZD1222原液	404	1.3%	14,375	28.1%	(35.6倍)	14,700
売上高合計	30,085	100.0%	51,082	100.0%	+69.8%	52,000

◆売上高 51,082百万円  
対前期+20,996百万円



主な増減要因（前年同期比）

- ・イズカーゴ®の想定以上の市場浸透 +3,003百万円
- ・契約金収入の増加（JR-141グローバル導出、遺伝子治療共同研究など） +4,165百万円
- ・契約内容に準じたAZD1222原液の出荷 +13,971百万円

続きまして、売上高の内訳につきまして、ご説明申し上げます。

まず、グロウジェクト、こちらにつきましては、129億4,500万円で、前年同期比では2.3%の減となっております。また、イズカーゴ、こちらにつきましては、30億300万円で、当初予想を上回るペースで増加したといった状況でございます。

一方、腎性貧血治療薬、こちらにつきましては、合計で58億7,500万円で、前年同期比17.1%の減収となっております。

また、テムセル、こちらにつきましては、34億9,700万円で、前年同期比で43.2%の増ということで、大きく増加しております。また、アガルシダーゼベータ、こちらにつきましては、7億1,100万円で、こちらにつきましても、51.3%、前年同期比より増加している状況でございます。

これらを合計いたしました、医薬品等合計の売上高につきましては、260億3,200万円ということで、前年同期比11.9%の増と、大きく増加している状況でございます。

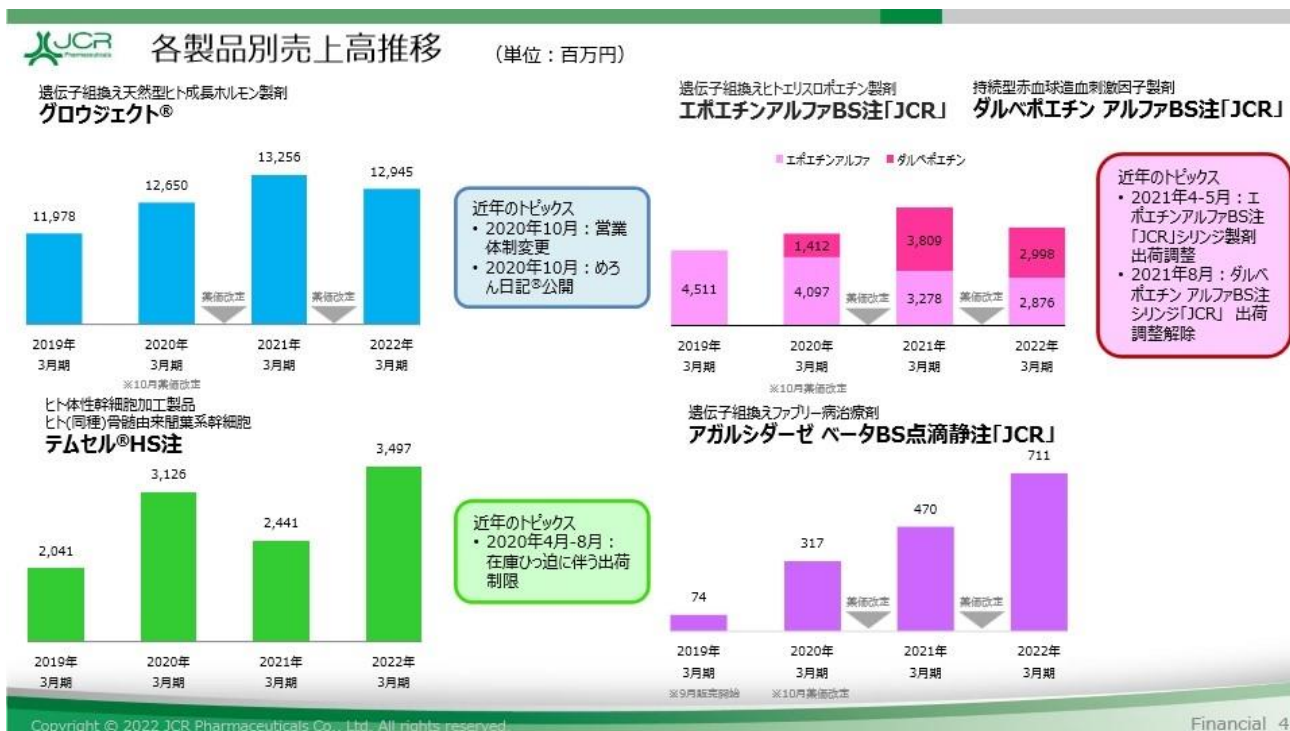
続きまして、契約金収入、こちらにつきましても、当期は105億7,100万円を計上しておりまして、こちらも前年同期比65%の増で、大きく増加している状況でございます。また、新型コロナウイルス

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ウイルスワクチン原液 AZD1222 原液、こちらにつきましては、当期は 143 億 7,500 万円計上されておりまして、こちらも前年に比べて大きく増加している状況でございます。

これらによりまして、売上高合計につきましては、510 億 8,200 万円と、前年同期比 69.8%の大幅増収となっている状況でございます。



続きまして、各製品別売上高の推移のグラフになっております。こちら、先ほどご説明申し上げた内容をグラフ化しております。

グロウジェクト、こちらにつきましては、当年度に関しましては、若干減少してしまった状況でございます。ただし、数量ベースでは順調に推移している状況でございます。

また、右側がエポエチンアルファ、ならびにダルベポエチンアルファの売上の推移を記載しております。こちらにつきましては、先ほど申し上げましたとおり、減収となっております。こちらにつきましては、右に記載させていただいておりますが、4月にエポエチンアルファに関しては出荷調整、また 2021 年 8 月、ダルベポエチンに関しましても、出荷調整が解除された状況でございます。このような要因もございまして、減収となっている状況でございます。

また左下、テムセルですね。こちらは、昨年度、若干在庫逼迫によりまして、出荷制限をかけたといった要因もございまして減収となっておりますが、当年度はそのような要因もなく、順調に売上が推移した状況でございます。

**サポート**

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



また、右下のアガルシダーゼベータ、こちらにつきましても、発売開始より順調に売上を増やしている状況でございます。



続きまして、イズカーゴ、こちらの単月での売上高の推移を記載しております。

こちら、左下5月に発売となりましたが、それ以降、毎月順調に売上を伸ばしている状況でございます。2022年3月単月で3億9,900万円の売上を計上し、累計で30億300万円の売上を計上しております。

こちらにつきましては、11月にマーケティング部内に、ライソゾーム病の専任部隊を設置いたしまして、イズカーゴに関する情報提供活動を積極的にサポートする体制を整えております。

また、5月にはムコ多糖症の情報サイトを開設したり、売上を増加するために、積極的に活動を行っている状況でございます。

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

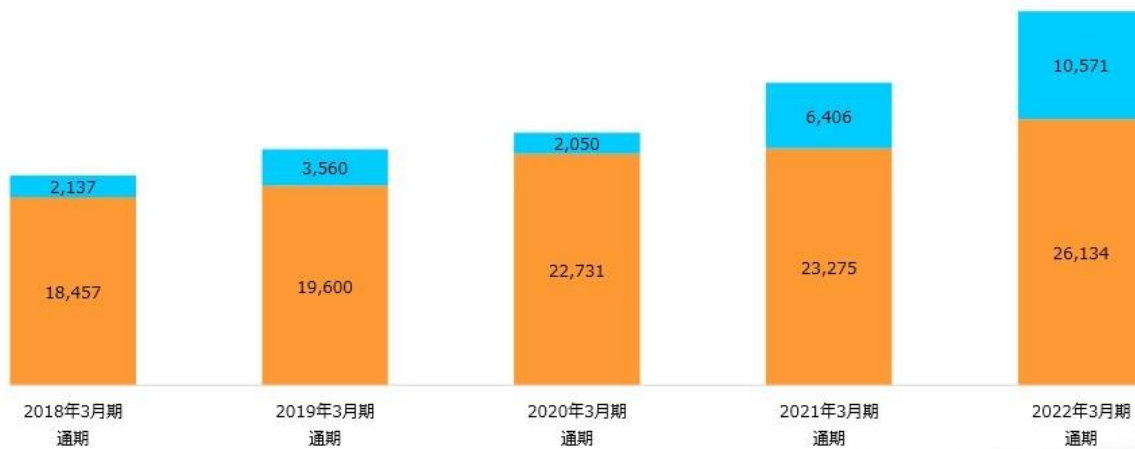


## 売上高推移 (AZD1222原液を除く)

■ 製商品\*売上高 ■ 契約金

(単位：百万円)

\*製商品：グロウジェクト、イズカーゴ、腎性貧血治療薬、テムセル、アガルシダーゼベータBS注「JCR」、その他



Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Financial 6

続きまして、売上高の推移。こちら、コロナウイルスのワクチンの原液を除いたところの推移を記載しております。

オレンジの部分、こちらが製商品の売上高になっております。こちらにつきましては、過去5年間、順調に推移して右肩上がり順調に推移している状況でございます、当年度につきましては、261億3,400万円を計上している状況でございます。

また、上の青いところ、こちらにつきましては、契約金収入を記載しております。こちらにつきましても、当年度は105億7,100万円、順調に増やしている状況でございます。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



	2021年 3月末	2022年 3月末	増減 ・主な増減項目		2021年 3月末	2022年 3月末	増減 ・主な増減項目
流動資産	48,545	62,188	計 +13,642 ・現預金 +4,472 ・売掛金 +7,402 ・たな卸資産 +1,082	流動負債	29,028	42,054	計 +13,025 ・圧縮未決算特別勘定 +8,167 ・短期借入金 +2,300
				固定負債	6,199	3,990	計 △2,208 ・長期借入金 △2,300
				負債合計	35,227	46,045	+10,817
固定資産	25,238	34,946	計 +9,707 ・有形固定資産 +9,610	純資産合計	38,557	51,089	計 +12,531 ・配当金 △2,170 ・利益計上 +14,446
合計	73,784	97,134	+23,349	合計	73,784	97,134	+23,349
				自己資本比率	51.3%	51.8%	

続きまして、財政状態につきまして、ご説明申し上げます。

左が資産合計、こちらは971億3,400万円と、。期首に比べまして、233億4,900万円増加しております。増加の主な内訳といたしましては、流動資産、こちらが136億4,200万円、固定資産が97億700万円増加している状況でございます。流動資産につきましては、現預金、こちらが44億7,200万円。また売掛金、こちらが74億200万円増加している状況でございます。

一方、負債、こちらにつきましては、460億4,500万円と、前期末352億2,700万円に對しまして、108億1,700万円増加している状況でございます。こちらの主な内訳といたしましては、流動負債、こちらが130億2,500万円増加しているといったところが、主な要因となっております。

また、純資産合計、こちらにつきましては、510億8,900万円、前年比125億3,100万円の増加となっております。こちらは、当期純利益が計上されたものが144億4,600万円ございまして、その中から配当ですね、21億7,000万円おこなったといったところで、変動している状況でございます。

なお、自己資本比率、こちらにつきましては51.8%と、前期末比0.5%の上昇となっております。

## サポート

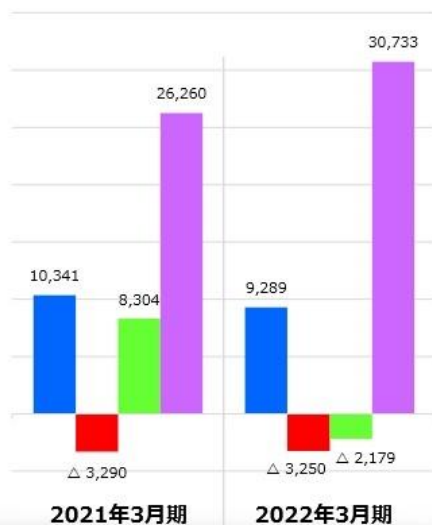
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## キャッシュ・フロー（連結）

（単位：百万円）

■ 営業活動によるCF ■ 投資活動によるCF  
■ 財務活動によるCF ■ 期末 現金及び現金同等物



	2021年3月期 A	2022年3月期 B	増減 B-A
税金等調整前純利益	8,653	19,404	10,751
減価償却費	1,892	1,945	52
売上債権	△ 205	△ 7,402	△ 7,197
棚卸資産	△ 4,699	△ 1,082	3,617
仕入債務	2,253	△ 1,608	△ 3,861
その他	2,446	△ 1,966	△ 4,413
<b>営業活動によるCF</b>	<b>10,341</b>	<b>9,289</b>	△ 1,052
有価証券	0	0	0
設備投資	△ 4,780	△ 11,333	△ 6,552
その他	1,490	8,083	6,593
<b>投資活動によるCF</b>	<b>△ 3,290</b>	<b>△ 3,250</b>	40
借入金	9,420	0	△ 9,420
配当金・自己株式	△ 1,069	△ 2,158	△ 1,089
その他	△ 46	△ 20	25
<b>財務活動によるCF</b>	<b>8,304</b>	<b>△ 2,179</b>	△ 10,483
現金及び現金同等物の増減額	15,332	4,472	△ 10,859
期末現金及び現金同等物	26,260	30,733	4,472
【ご参考】			
減価償却費	1,892	1,945	
設備投資	3,319	4,472	

Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Financial 8

続きまして、キャッシュ・フローの状況をご説明申し上げます。

まず、先ほども申し上げましたが、現預金の残高、こちらは期末で 307 億 3,300 万円と、期首と比べまして、44 億 7,200 万円増加している状況でございます。

まず、営業活動によるキャッシュ・フロー、こちらは 92 億 8,900 万円となっております。こちらの主な内訳といたしましては、まず税引前純利益、こちらが 194 億 400 万円計上されております。あと、大きなところといたしましては売上債権、こちらが期末で 74 億 200 万円増加している。あるいは棚卸資産、こちらも 10 億 8,200 万円増加。仕入債務につきましては、16 億 800 万円の減少といったところが主な要因となっております。

また、投資活動によるキャッシュ・フロー、こちらにつきましては、32 億 5,000 万円の支出となっております。こちらの主な要因といたしましては、設備投資、こちらで 113 億 3,300 万円の支出がございましたが、それに対しまして助成金、こちらが 80 億程度入金されている状況で、投資活動によるキャッシュ・フローは、32 億 5,000 万円の支出となっております。

また、財務活動によるキャッシュ・フロー、こちらにつきましては、21 億 7,900 万円の支出となっております。こちらは、配当金、こちらの支出が 21 億 5,800 万円あったといったところが、主な内容となっております。

これらによりまして、現金及び現金同等物は 44 億 7,200 万円増加した状況でございます。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



**業績予想**  
 (2023年3月期)

売上高	: 45,000百万円 (前期比 △ 11.9%)
営業利益	: 14,500百万円 (前期比 △ 27.3%)
経常利益	: 14,500百万円 (前期比 △ 29.3%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	: 10,300百万円 (前期比 △ 29.0%)

- AZD1222原液製造事業の終了により、2022年3月期と比較し減収・減益となる。ただし、AZD1222原液製造事業を除いた事業では増収増益を目指す。

	2022年3月期	2023年3月期	前期比
AZD1222原液を除く売上高	36,706百万円	43,070百万円	+17.3%

- ・ イズカーゴ<sup>®</sup>の国内シェア拡大を目指す。
- ・ グロウジェクト<sup>®</sup>は販売数量増によって薬価改定の影響をカバーし、堅調な増加を目指す。
- ・ アガルシターゼ ベータBS点滴静注「JCR」は今期より、住友ファーマ株式会社に販売業務を移管。
- ・ ラインソーム病開発品目の導出および技術提携など、ライセンス事業に積極的に取り組み、契約金収入15,400百万円を見込む。
- 売上高構成比率の変化から、販売・一般管理費は前期比減少を見込む一方で、グローバル臨床試験の進捗を受けて研究開発費の前期比増加を見込む。
  - ・ 販売・一般管理費 △ 7.5%
  - ・ 研究開発費 +25.4%

続きまして、2023年3月期の予想につきまして、ご説明申し上げます。

まず、売上高につきましては450億円、営業利益につきましては145億円、経常利益につきましても145億円、当期純利益につきましては103億円を予想しております。いずれも2022年3月期に比べますと減収減益となっております。

こちらの主な要因といたしましては、新型コロナウイルスワクチン原液AZD1222原液製造事業、こちらが終了するといったところによりまして、減収減益となる予想でございます。ただし、AZD1222原液製造事業を除いた事業では、増収増益を目指しております。

こちらにAZD1222原液を除く売上高を記載させていただいております。2022年3月期につきましては、367億600万円の実績でございましたが、2023年3月期には、430億7,000万円を見込んでおりまして、こちらだけを捉えますと、17.3%の増収となっております。

この増収の要因といたしましては、まずイズカーゴ、こちらにつきましては、国内シェアのさらなる拡大を目指すといったところでございます。

また、グロウジェクト、こちらにつきましては、販売数量の増によりまして、薬価改定の影響をカバーいたしまして、堅調な増加を目指しております。

**サポート**

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptasia.com

また、アガルシダーゼベータ BS 点滴静注 JCR につきましては、今期より住友ファーマ株式会社に販売業務を移管し、こちらにつきましても、シェア拡大、売上拡大を目指していくといったところでございます。

また、ライソゾーム病開発品目の導出および技術提携などによりまして、ライセンス事業、こちらにつきましても、引き続き積極的に取り組んでまいります。これによりまして、契約金収入につきましては、154 億円を見込んでおります。

売上高の構成比率の変化によりまして、販売・一般管理費につきましては、前期比では減少を見込む一方で、グローバル臨床試験、こちらの進捗を受けまして、研究開発費につきましては、前期比で増加を見込んでおります。



## 2023年3月期 予想

(単位：百万円)

連結	2022年3月期 A	2023年3月期(予) B	増減 B-A	増減率 (B-A)/A
売上高	51,082	45,000	△ 6,082	△ 11.9%
売上原価	10,461	9,000	△ 1,461	△ 14.0%
売上総利益	40,620	36,000	△ 4,620	△ 11.4%
販売・一般管理費	13,511	12,500	△ 1,011	△ 7.5%
研究開発費	7,175	9,000	+1,824	+25.4%
営業利益	19,933	14,500	△ 5,433	△ 27.3%
経常利益	20,512	14,500	△ 6,012	△ 29.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,507	10,300	△ 4,207	△ 29.0%

対売上高	売上原価率	20.5%	20.0%	△ 0.5%
	研究開発費率	14.0%	20.0%	+6.0%
	営業利益率	39.0%	32.2%	△ 6.8%

(ご参考)

共同開発先による負担控除前の 研究開発費	7,671	9,500	+1,829	+23.8%
-------------------------	-------	-------	--------	--------

続きまして、損益計算書の内容につきまして、ご説明申し上げます。

繰り返しになりますが、売上高につきましては 450 億円と、前年同期比では 60 億 8,200 万円の減となります。

また、売上総利益、こちらにつきましては 360 億円を見込んでおります。販売・一般管理費、こちらは 125 億円と前期比 10 億 1,100 万円の減少を見込んでおります。

一方で、研究開発費、こちらにつきましては、当事業年度は先ほど申し上げましたけれども、海外グローバル展開、こちら等々積極的に、研究開発投資を行っていくところございまして、90 億

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



円を見込んでおります。こちら 2022 年 3 月期と比べますと 18 億 2,400 万円増加という形になっております。ただ研究開発費、こちらの増加につきましては、今後さらなる発展を目指す上では、必要不可欠といったところであるために、積極的に投資を行っていく状況でございます。

これらの結果、営業利益につきましては、145 億円見込んでおります。経常利益につきましても、145 億円。最終当期純利益につきましては、103 億円を見込んでおります。こちらにつきましては、2022 年 3 月期と比べますと 29.0%の減益とはなっております。

続きまして、下に対売上高の比率につきまして、記載させていただいております。

まず、売上原価率につきましては 20%を予想しております。こちらが前年度比で 0.5%のマイナスとなっておりますが、こちら売上構成の変化によるものでございます。

また、研究開発費、こちらにつきましては売上高比 20%になっております。2022 年 3 月期が 14%でございましたので、6%の上昇となっております。こちら、先ほど申し上げましたが、研究開発に関しましては、今期は積極的に取り組んでいくといったところもございまして、上昇している状況でございますが、中期経営計画、こちらで掲げている対売上高比 20%をキープしている状況でございます。

これらによりまして、営業利益率につきましては 32.2%で、こちら前年に比べますと 6.8%の減少となっております。



## 2023年3月期 予想 (内訳)

(単位：百万円)

品目	2022年3月期		2023年3月期 (予)		増減 (B-A)
	A	構成比	B	構成比	
グロウジェクト®	12,945	25.3%	13,100	29.1%	154
イズカゴ®	3,003	5.9%	5,210	11.6%	2,206
腎性貧血治療薬	5,875	11.5%	4,930	11.0%	△ 945
エポエチンアルファ B S 注「J C R」	2,876	5.6%	2,630	5.8%	△ 246
ダルベポエチンアルファ B S 注「J C R」	2,998	5.9%	2,300	5.1%	△ 698
テムセル® H S 注	3,497	6.9%	3,530	7.8%	32
アガルシダーゼ ベータ B S 点滴静注「J C R」	711	1.4%	760	1.7%	48
<b>主力製品合計</b>	<b>26,032</b>	<b>51.0%</b>	<b>27,530</b>	<b>61.2%</b>	<b>1,497</b>
契約金収入	10,571	20.7%	15,400	34.2%	4,828
その他	102	0.2%	140	0.3%	37
A Z D 1 2 2 2 原液	14,375	28.1%	1,930	4.3%	△ 12,445
<b>売上高合計</b>	<b>51,082</b>	<b>100.0%</b>	<b>45,000</b>	<b>100.0%</b>	<b>△ 6,082</b>

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



続きまして、売上高予想につきまして、ご説明申し上げます。

まず、グロウジェクト、こちらにつきましては薬価改定がございましたが、数量ベースでの増加によってカバーすることによりまして131億円で、2022年3月期に比べると、1億5,400万円の増収を見込んでおります。

また、イズカーゴ、こちらにつきましては、さらなるシェアを拡大するところによりまして、52億1,000万円と、こちらも2022年3月期に比べますと22億円ほどの増収といった形を予想しております。

一方、腎性貧血治療薬、こちらにつきましては49億3,000万円と、2022年3月期に比べると9億4,500万円の減収を見込んでおります。

また、テムセル、こちらにつきましては35億3,000万円で、ほぼ2022年3月期並みといったところを予想しております。

また、アガルシダーゼベータBS点滴静注JCR、こちらにつきましては7億6,000万円の売上を見込んでおります。こちらにつきましては、数量ベースでは増加している状況でございます。

これらによりまして、主力製品合計では、275億3,000万円と、前年同期比14億9,700万円の増収を見込んでおります。

また、契約金収入、こちらにつきましては154億円見込んでおりまして、こちらが2022年3月期に比べますと48億2,800万円の増収を計画しております。

また、AZD1222原液、こちらにつきましては、2022年3月期が143億7,500万円計上しておりますが、2023年3月期には19億3,000万円、こちらが2022年3月期に計画していたものが、若干こちらにずれ込んだといったところでございますが、こちらの計上にとどまるといったところがございます。

これらによりまして、売上高の合計につきまして、450億円という金額を予想しております。以上22年3月期の決算の概要、ならびに2023年3月期の業績予想につきまして、ご報告を申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

---

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



- R&D ハイライト
- R&D 進捗報告
- ワクチン原液製造事業
  
- 中計「変革」 中間総括

**菌田**：皆さん、こんにちは。研究本部の菌田でございます。私より 2022 年 3 月期の事業報告をいたします。

まず、目次になります。本日は、R&D のハイライトと進捗報告。その後にワクチン原液製造事業についてお話しします。最後に中期経営計画「変革」の中間総括についてお話ししたいと思います。

### 2021年

- ◆9月 **JR-141** (pabinafusp alfa) 武田薬品工業株式会社と、共同開発と事業化に向けた契約を締結
- ◆10月 **JR-141** (pabinafusp alfa) 欧州医薬品庁より**PRIME**指定

### 2022年

- ◆1月 **JR-441** 欧州委員会より**オーファンドラッグ**指定
- ◆2月 WORLDSymposium2022においてイズカーゴ®点滴静注用10mg **New Treatment Award**を受賞
- ◆2月 **JR-141** (pabinafusp alfa) **グローバル臨床第III相試験における投与開始**
- ◆3月 **JR-479** (血液脳関門通過型GM2ガングリオンドース治療薬) **開発着手**
- ◆3月 武田薬品工業株式会社と、ライソゾーム病に対する**J-Brain Cargo®**技術を用いた**遺伝子治療**に関する共同研究開発および**ライセンス契約**締結
- ◆3月 R&Dミーティング開催 (機関投資家・アナリスト向け)
- ◆4月 JTR-161 (ヒト歯髄由来幹細胞) 帝人株式会社との共同開発を終了 (対象疾患：急性期脳梗塞)

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

まず、研究開発トピックス。この下半期におけるトピックスを紹介しております。

JR-141 イズカーゴにつきましては、昨年の9月に武田薬品さんと、事業化の契約を締結しております。その後、欧州でのPRIME指定をもらっています。また、本年の2月ですね、ライソゾーム病の世界的な一番大きな学会になりますけれども、WORLDSymposiumという学会において、イズカーゴがNew Treatment Awardを受賞しました。非常に光栄なことだと受け止めております。

またその後、実際のグローバルフェーズ3の患者さんへの投与が開始されました。

次にJR-441、これはサンフィリップA型の治療薬になりますが、これも本年、欧州でオーファンドラッグ指定をされております。

また、新たな開発品としてJR-479、これはGM2 ガングリオシドーシスの治療薬になりますが、こちらの開発にも着手しました。

また、本年3月、武田薬品さんとJ-Brain Cargoを用いた、遺伝子治療に関する共同研究開発およびライセンス契約を締結しております。

研究開発パイプライン		★ : 2021年11月から開発ステージの進捗があったプロジェクト				
開発番号	適応症	前臨床	臨床試験	申請	承認	備考
JR-141	△コ多糖症II型 (ハンター症候群)	承認 製造販売承認申請 臨床第3相試験				<ul style="list-style-type: none"> <li>J-Brain Cargo® 適用</li> <li>2025年度以降、米国・欧州での承認予定</li> </ul>
JR-171	△コ多糖症I型 (ハーラー症候群 等)	臨床第1/2相試験				<ul style="list-style-type: none"> <li>J-Brain Cargo® 適用</li> <li>2023年度 Ph3試験</li> </ul>
JR-162	ポンペ病	前臨床				<ul style="list-style-type: none"> <li>J-Brain Cargo® 適用</li> </ul>
JR-441	△コ多糖症IIIA型 (サンフィリップ症候群A型)	前臨床				<ul style="list-style-type: none"> <li>J-Brain Cargo® 適用</li> <li>2023年度 Ph1/2試験</li> </ul>
JR-443	△コ多糖症VII型 (スライ症候群)	前臨床				<ul style="list-style-type: none"> <li>J-Brain Cargo® 適用</li> </ul>
JR-446	△コ多糖症IIIB型 (サンフィリップ症候群B型)	前臨床				<ul style="list-style-type: none"> <li>J-Brain Cargo® 適用</li> <li>2023年度 Ph1/2試験</li> </ul>
★ JR-479	GM2ガングリオシドーシス (サンドホフ病、テイ・サックス病)	前臨床				<ul style="list-style-type: none"> <li>J-Brain Cargo® 適用</li> <li>~2025年度 Ph1試験</li> </ul>
JR-401X	SHOX異常症における低身長	臨床第3相試験				<ul style="list-style-type: none"> <li>グロウジェット® 適応拡大</li> <li>2023年度 日本での承認予定</li> </ul>
JR-142	小児成長ホルモン分泌不全性低身長症	臨床第2相試験				<ul style="list-style-type: none"> <li>持続型成長ホルモン製剤</li> <li>2023年度 Ph3試験</li> </ul>
JR-031HIE	新生児低酸素性虚血性脳症	臨床第1/2相試験				<ul style="list-style-type: none"> <li>テムセル®HS注 適応拡大</li> </ul>

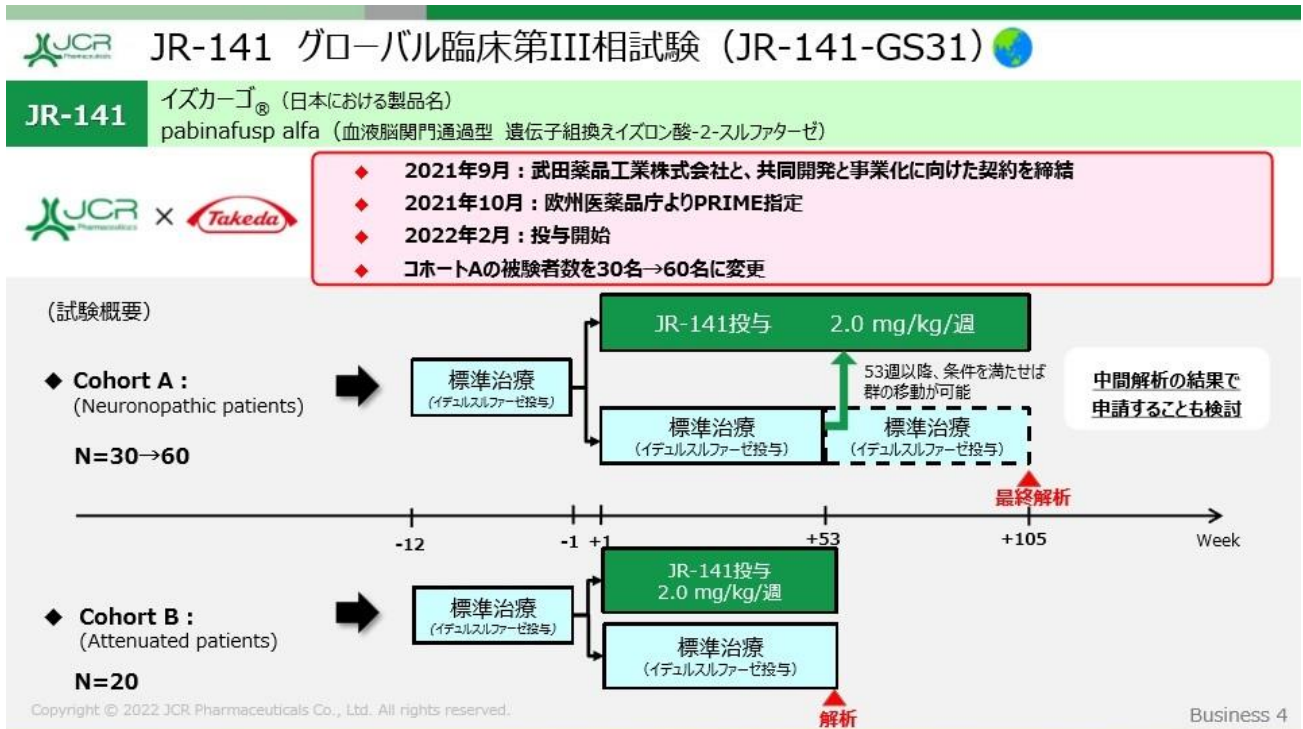
こちらが現在の研究開発のパイプラインになっております。

上側の緑の矢印がライソゾーム病関連、下側の青が成長ホルモン関連、オレンジが再生医療等製品関連になっております。

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

今回は JR-479、下側になりますが星マークが付いております。この品目が新たに追加されております。



ここから JR-141 のグローバルフェーズ 3 について、少し紹介したいと思います。

こちらの図は、実際の臨床試験の概要を示していますが、以前にもお示ししたものと同じになっております。

2022年、本年の2月に患者さんへの投与が開始されまして、被験者数に変更になりました。これは両者で、武田薬品さんと JCR 両者で協議をして、より試験の成功確率を高め得るという考えで、トータル 50 名から 80 名に変更しております。その他のところは変更ございません。

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

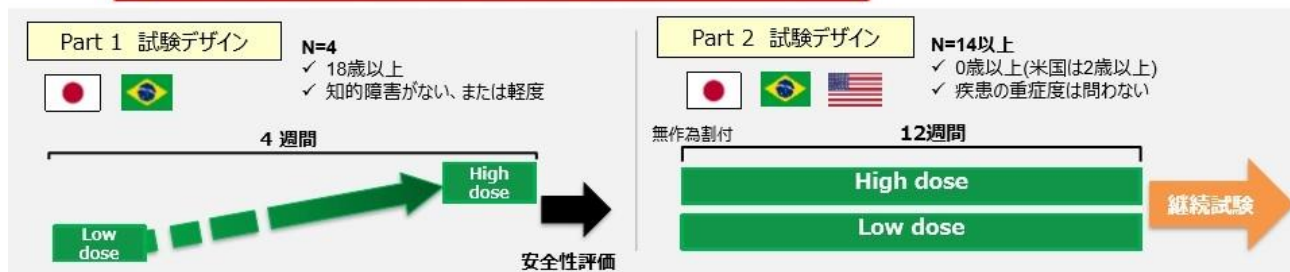


## JR-171 開発状況

**JR-171** lepunafusp alfa (血液脳関門通過型 遺伝子組換え $\alpha$ -L-イズロニダーゼ)

グローバル臨床第1/2相試験 (JR-171-101) : 試験概要

◆ 2022年3月 : 患者組み入れを予定通り完了 (Part2試験)



	Part1	Part2
主要評価項目	安全性	
副次評価項目	血漿中薬物動態 中枢神経症状および全身症状に対する探索的有効性	
試験実施国	日本・ブラジル	日本・ブラジル・米国
試験詳細	clinicaltrials.gov : <a href="https://clinicaltrials.gov/ct2/show/study/NCT04227600">NCT04227600</a>	

Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Business 5

次に、JR-171 の開発状況です。

こちらも今、グローバルの臨床試験です。こちらはフェーズ 1、2 のグローバル試験を実施中です。本年の 3 月に予定通り、患者の組み入れを終了いたしました。今後、順調に試験が進んでいくものと期待しております。

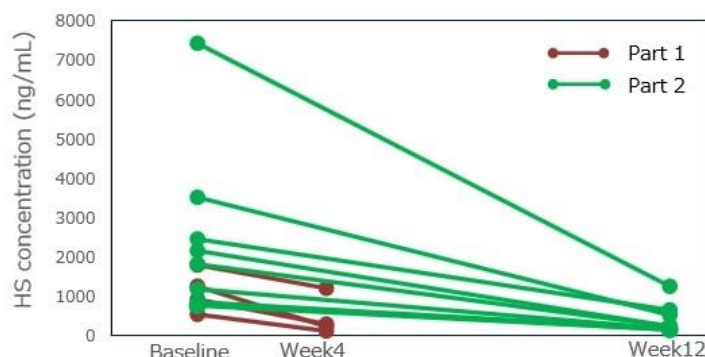


## JR-171 結果速報

**JR-171** lepunafusp alfa (血液脳関門通過型 遺伝子組換え $\alpha$ -L-イズロニダーゼ)

グローバル臨床第1/2相試験 (JR-171-101)

**Change in CSF Heparan sulfate (HS) Concentrations as surrogate for substrate reduction in the CNS**



**全被験者でCSF中のHSが減少した**

CSF : 脳脊髄液  
HS : ヘパラン硫酸

Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Business 6

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



この試験に関しまして、少し実際の臨床のデータを紹介したいと思います。

このデータは、患者さんの脳脊髄液中のヘパラン硫酸の濃度を示したものになります。Baselineと書いてあるところが治療前。そしてその後、治療した Week4 と Week12 とありますけども、それぞれの治療後の脳脊髄液中の Heparan sulfate の濃度を示しています。ここを見ていただくとおり、全ての被験者で脳脊髄液中の Heparan sulfate が減少しております。これは、JR-141 イズカーゴの治験で見られたものと同じ傾向ですので、JR-171 においても非常に有望だと捉えております。

**JR-479 開発着手**

<b>JR-479</b>	<b>血液脳関門通過型 遺伝子組換えβ-ヘキソサミニダーゼA</b>												
<b>適応症</b> :	<b>GM2ガングリオシドーシス</b> ┌ <b>テイ・サックス病</b> : β-ヘキソサミニダーゼA の αサブユニットの欠損によって発症 └ <b>サンドホフ病</b> : β-ヘキソサミニダーゼA の βサブユニットの欠損によって発症												
<b>発症率*</b> :	テイ・サックス病:1/100,000~300,000出生 サンドホフ病:テイ・サックス病より少ないと言われる <span style="float: right;">*当社調べ</span>												
<b>疾患概要</b> :	ライソゾーム病の一種で、糖脂質であるGM2ガングリオシドを体内で分解する酵素(β-ヘキソサミニダーゼA)の欠損により発症する常染色体劣性遺伝性疾患。脳を中心に原因基質が蓄積するため、進行性の中枢神経症状を呈する。テイ・サックス病とサンドホフ病は臨床症状で区別することは困難。												
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #0056b3; color: white;"> <th>病型</th> <th>発症年齢</th> <th>臨床症状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr style="background-color: #add8e6;"> <td>乳児型 (古典型)</td> <td>3~5カ月</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 精神運動発達遅滞、退行、視覚障害、聴覚障害、けいれん 等</li> <li>• 3歳までに死亡することが多い</li> </ul> </td> </tr> <tr style="background-color: #add8e6;"> <td>若年型 (亜急性型)</td> <td>2~10歳</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 乳児型に類似するが、やや軽度。進行性の運動失調、退行、けいれん 等</li> <li>• 5~15歳で死亡することが多い</li> </ul> </td> </tr> <tr style="background-color: #add8e6;"> <td>成人型 (遅発型)</td> <td>20~30歳前半</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 知的障害は軽度だが、運動失調、進行性の神経症状が特徴的</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	病型	発症年齢	臨床症状	乳児型 (古典型)	3~5カ月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 精神運動発達遅滞、退行、視覚障害、聴覚障害、けいれん 等</li> <li>• 3歳までに死亡することが多い</li> </ul>	若年型 (亜急性型)	2~10歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 乳児型に類似するが、やや軽度。進行性の運動失調、退行、けいれん 等</li> <li>• 5~15歳で死亡することが多い</li> </ul>	成人型 (遅発型)	20~30歳前半	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 知的障害は軽度だが、運動失調、進行性の神経症状が特徴的</li> </ul>
病型	発症年齢	臨床症状											
乳児型 (古典型)	3~5カ月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 精神運動発達遅滞、退行、視覚障害、聴覚障害、けいれん 等</li> <li>• 3歳までに死亡することが多い</li> </ul>											
若年型 (亜急性型)	2~10歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 乳児型に類似するが、やや軽度。進行性の運動失調、退行、けいれん 等</li> <li>• 5~15歳で死亡することが多い</li> </ul>											
成人型 (遅発型)	20~30歳前半	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 知的障害は軽度だが、運動失調、進行性の神経症状が特徴的</li> </ul>											

動物試験において、脳実質、脳脊髄液などにおける原因基質の減少作用を確認  
3年以内の臨床試験開始を目指す

Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved. Business 7

次に、新しく開発コードを付番しました JR-479、GM2 ガングリオシドーシスの治療薬になります。

この GM2 ガングリオシドーシスも、ライソゾーム病の一種になります。ただ、他のライソゾーム病の中でこの疾患が違うのは、より中枢神経症状がシビアに出る疾患だということです。ですので、J-Brain Cargo、血液脳関門を通過させる技術が、とても有効に発揮されるだろう、そういった疾患になるかと思っています。

この疾患においては、もう既にマウスとサルを用いた試験で、この薬剤が頭に分布すること、血液脳関門を通過して脳に分布すること、そして実際のモデルマウスを使って、脳ですとか、そういった中枢神経系でたまっていた原因の基質を減らせること、そういったことを既に確認をしております。この品目に関して3年以内に、臨床試験を開始できるように進めております。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com





## 開発ステージ（JCRが取り組む18のライソゾーム病治療薬）

2021年11月から開発ステージの進捗があったプロジェクト

承認	JR-141 日本	ムコ多糖症II型 (ハンター症候群)	アガルシダーゼベータBS 点滴静注「JCR」	
製造販売承認申請	JR-141 ブラジル	ムコ多糖症II型 (ハンター症候群)		
臨床試験	JR-141 グローバル	ムコ多糖症II型 (ハンター症候群)	JR-171 グローバル	ムコ多糖症I型 (ハーラー症候群 等)
前臨床	JR-162	ボンバ病	JR-441	ムコ多糖症IIIA型 (サンフィリップ症候群A型)
			JR-446	ムコ多糖症IIIB型 (サンフィリップ症候群B型)
製法検討	JR-443	ムコ多糖症VII型 (スライ症候群)	JR-479	GM2ガングリオシド-シス
				クラッペ病
				フコシド-シス
				バッテン病 乳児型 (CLN1)
動物モデルの薬効確認		ニーマンピック病		GM1ガングリオシド-シス
		ゴ-シェ病		異常性白質 ラフトロフィー
				バッテン病 遅発乳児型 (CLN2)
				α-マンノシド-シス
基礎研究				ガラクトシアリド-シス
	既存薬あり (worldwide)		既存薬なし (worldwide)	

Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Business 8

こちらが、現在の JCR が取り組んでいますライソゾーム病、全てを配置した一覧になっております。

左側のオレンジが既存薬あり。この既存薬というのは、血液脳関門通過技術を用いていない、酵素補充療法があるものということです。

右側の既存薬なしというのは、酵素補充療法もそうですし、その他の有効な治療、承認済みの治療薬がないものを示しています。この中で JR-479、右の真ん中あたりになりますが、この赤で示してあるものが新しくここに付番されて、さらにこのステージ、開発ステージが上がっております。

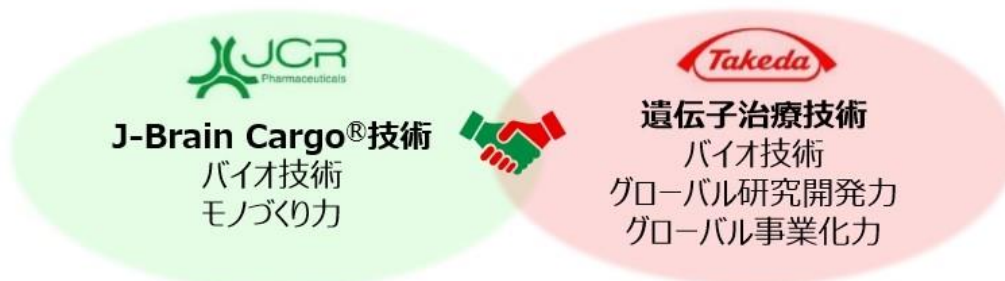
### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



➤ 2022年3月28日：武田薬品工業株式会社と、ライソゾーム病に対するJ-Brain Cargo®  
技術を用いた遺伝子治療に関する共同研究開発およびライセンス契約締結

- 優先疾患：ライソゾーム病
- 追加オプション：希少疾患もしくは非希少疾患領域における疾患



当社の強みを維持したまま、時代を一新しうる  
J-Brain Cargo® 開発品目の研究開発に注力

Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Business 9

ここから遺伝子治療に関するアップデートをしたいと思います。

先ほども申しましたが、本年3月に武田薬品と J-Brain Cargo を用いた、遺伝子治療に関する契約を締結しております。まずはライソゾーム病をターゲットに進めますが、この契約の中には、ライソゾーム病以外の希少疾患、そしてさらには希少疾患ではないコモンディージーズといえますか、非希少疾患領域においても対象になっております。

われわれが持っている血液脳関門の技術、そして武田さんの遺伝子治療の技術。この最先端の二つの技術を組み合わせることで、時代を一新し得るような、新しい薬品の開発を目指して取り組んでいきたいと思っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## ワクチン原液製造事業 アップデート

- 予定していた製造（2020年12月30日契約分）を年度内にすべて完了
  - ・出荷分に応じた売上高を計上（一部、2022年度に計上予定）
  - ・ロットアウト無し、高品質製造を達成。生産分野での強みを発揮
- 厚生労働省令和2年度ワクチン生産体制緊急整備等事業として、神戸サイエンスパーク内に新工場を建設中
  - ・竣工：2022年10月予定



神戸サイエンスパーク新工場 完成イメージ

Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Business 10

続きまして、ワクチン原液製造事業のアップデートになります。

われわれが予定していた昨年度の製造は、全て年度内に完了しました。またその製造において、ロットアウトがないという素晴らしい結果を得ることができております。

また、非常に品質のいいものを、いいイールドで作ることができ、当社が創業以来ずっと積み上げていきました「ものづくり」とか、生産の分野、そこでの強みが十二分に発揮できたのではないかと考えています。

そして、厚生労働省のワクチン生産体制の整備事業として、神戸サイエンスパーク内に新たに新しい工場を現在建設中で、本年の秋ごろに竣工予定となっております。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



### ➤ 複数の開発品目における本格的なグローバル展開を見据え、6つの重要経営課題を設定



#### 最重要経営課題

希少疾病領域におけるJCRの重要性がさらに高まることを踏まえた

#### [1] 品質保証体制の質・量的拡充

さらに、2020年代後半からの業容の急拡大期を見据えて、以下の項目を重要経営課題として取り組みを加速する。

- [2] 今後数年間の収益基盤強化に向けた  
**既存製品の持続的成長のための取り組み**
- [3] ライソゾーム病領域の次を見据えた  
**基礎研究・応用研究の拡充**
- [4] 本格的なグローバル化を見据えた  
**生産・研究への積極的な設備投資の検討・着手**
- [5] 将来におけるライソゾーム病治療薬の事業価値最大化のための  
**エビデンス構築を含む製品戦略の立案**
- [6] 本格的なグローバル化以降の業容拡大を見据えた  
**業務および組織構造改革・人材育成**

では続きまして、中期経営計画「変革」の中間総括に移りたいと思います。

まず、中計「変革」の内容ですけれども、ここに示します六つの重要課題を設定しておりました。



品質保証体制の 質・量的拡充	研究から商業生産までの品質保証体制の更新 － アナリティカルR&Dセンター新設、品質試験棟着工 (2022年度竣工予定)
既存製品の持続的成長 のための取り組み	グロウジェクト基盤強化－ 電動デバイス用スマートフォンアプリ、新デバイスの開発 イズカーゴ®の計画を上回る市場浸透
基礎研究・ 応用研究の拡充	ライソゾーム病開発品目の順調な進捗 多様なモダリティへの展開－ J-Brain Cargo®を基盤とした創薬応用 (核酸・遺伝子・細胞治療等)
生産・研究への積極的な 設備投資の検討・着手	複数品目の同時並行開発を可能にする原薬・製剤製造キャパシティの拡充 － 新工場の建設用地取得と着工 (47,000m <sup>2</sup> )
エビデンス構築を含む 製品戦略の立案	イズカーゴ®の長期臨床データの取得、ライソゾーム病専任組織の設置
業務および組織構造改革 ・人材育成	機能・効率的な組織の再編、グローバルに活躍できる次世代リーダー育成、 生産性向上と働き方改革実現に向けたITインフラの拡充

それぞれに対する中間総括が、こちらになります。上から順番にいきたいと思います。

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

まず、品質保証体制の質・量的拡充においては、研究から商業生産までの品質保証体制の更新ということで、新たな組織の新設ですとか、試験棟の着工というものを進めております。

二つ目、既存製品の持続的成長のための取り組みにおきましては、グロウジェクトの基盤強化ということで、これまでも電動デバイスは積極的に開発をしていますけれども、そこに用いることのできるスマートフォンアプリを開発したり、また新しいデバイスの開発にも取り組んでおります。そして、イズカーゴ、こちら先ほど芦田も申しましたけれども、われわれが想定していた以上の市場浸透を図ることができております。

三つ目の基礎研究・応用研究の拡充についてですが、ライソゾーム病のパイプライン、先ほども説明しましたけれども、どのパイプラインも順調に進捗をしております。また、ライソゾーム病以外に J-Brain Cargo を用いるところにおいても、先日の R&D 説明会で少しお話ししましたが、さまざまなモダリティへの展開、これがだいぶ見えてきた状況になっております。

四つ目の生産・研究への積極的な設備投資の検討・着手につきましては、今後、ライソゾーム病品目もそうですし、その他の品目、複数品目を同時に並行して開発をすることを想定しています。そのために必要な原薬ですとか、製剤ですとか、そういったものの製造キャパシティの拡充を積極的に進めています。

五つ目、エビデンス構築を含む製品戦略の立案。ここはイズカーゴの長期臨床データ、これは日本でもう既に販売していますので、そこで長期のデータを得ることができております。これは非常に重要なデータだと思っています。そしてまたそのデータを得たり解釈するというので、営業本部の中にライソゾーム病専任の組織を設置しております。ここでさまざまなデータ、日本での臨床データを取得して行ってエビデンスにつなげたいと考えています。

最後、業務および組織構造改革・人材育成です。機能的に効率的に動ける組織、これまでもそのような組織を目指してきていましたが、JCR は今から第 2 の創業期グローバル化に向けて動き出すということで、今よりもさらに動きやすい組織というものを心掛けております。そこでグローバルに活躍できる次世代リーダーの育成、さらには IT インフラの拡充、そういった基盤を整えて、このような業務が順調に進むように、そういったことを既に手掛けております。

---

## サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



- **2020年度**：アストラゼネカ社のワクチン原液製造受託およびその他のライセンス事業の進捗により、売上高301億円、営業利益82.6億円を達成
- **2021年度**：イズカーゴ®の国内上市、ライセンス事業の大幅進捗、ワクチン事業が大きく寄与し、売上高510億円、営業利益199億円を達成

	2019年度実績	「変革」1年目 2020年度実績	「変革」2年目 2021年度実績	「変革」最終年度 2022年度予想	策定時ガイダンス (最終年度目標)
売上高	247億円	<b>301億円</b>	<b>510億円</b>	<b>450億円</b>	<b>320~360億円</b>
営業利益	32億円	<b>82.6億円</b>	<b>199億円</b>	<b>145億円</b>	<b>70~100億円</b>
研究開発費率 (対売上高)	24.2%	<b>17.82%</b>	<b>14.0%</b>	<b>20.0%</b>	<b>20%目安</b>
配当性向	36.8%	<b>21.5%</b>	<b>18.8%</b>	<b>23.6%</b>	<b>30%目安*</b>

\*安定配当を基本方針とし、期待に応える株主還元と財務の健全性のバランスを重視

次は数字面の紹介です。

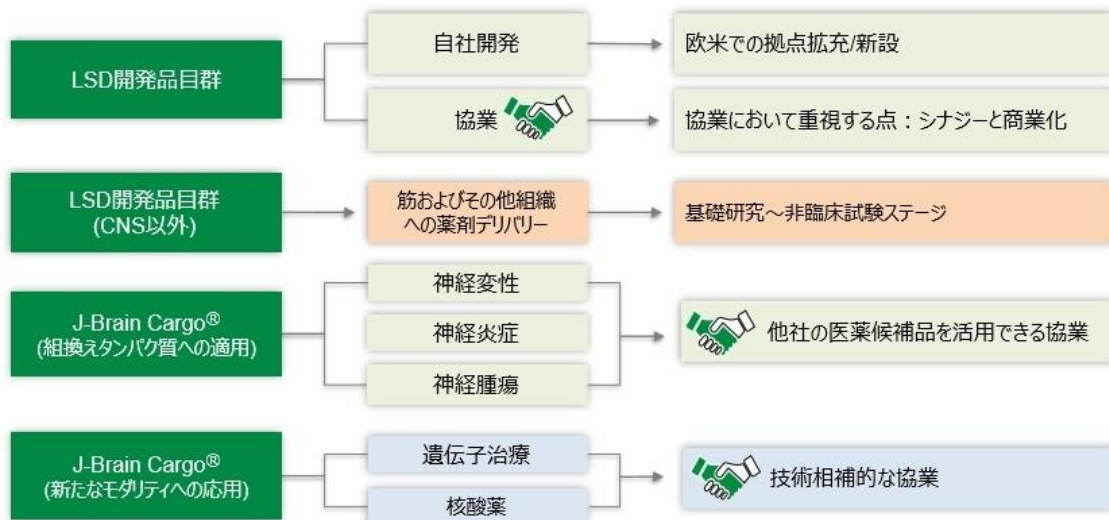
ガイダンスの中で一番右側になりますけれども、目標数字としてこのような数字を公表しておりました。それと比較して「変革」の1年目から2年目の実績と、最終年度である本年度の予想値をここに一覧で示しております。

先ほども申しましたけれども、「変革」2年目、終わった期ですけれども、そこで、もう既に目標数字は達成しております。また本年度の予想も、目標数字よりも上回った数字を予定しており、達成を目指して頑張っていきたいと思っております。

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

他社との協業により、当社の成長と新たな機会が生まれる



Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Business 15

それをかなえるべく、こういったビジョンで、こういった成長スキームを描いているのかということを紹介したいと思います。

この資料も、先日の R&D ミーティングで示したものと同じになります。大きく分けて左側、四つの緑の枠で示しておりますが、ライソゾーム病のパイプラインを進めていくこと。そしてライソゾーム病のパイプラインの中でも、CNS 以外、中枢神経系以外のところをターゲットするようなライソゾーム病も進めていくと。J-Brain Cargo の技術を他のライソゾーム病ではない領域に使っていくと。これらが将来のビジョンになってくるかと思えます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

他社との協業により、当社の成長と新たな機会が生まれる



適応症	ステータス	患者数 <sup>※1</sup>		想定市場規模 <sup>※2</sup>	
		日本	世界	日本 (2019年)	世界 (2019年)
ムコ多糖症II型 (ハンター症候群)	Ph III	約250名	約7,800名	約76億円	約870億円
ムコ多糖症I型 (ハーラー症候群 等)	Ph I/II	約60名	約3,600名	TBD	約700億円
ムコ多糖症III A型 (サンフィリップ症候群A型)	FY2023～ Ph I	約30名 (AB総数)	約4,000名	TBD	>700億円
ムコ多糖症III B型 (サンフィリップ症候群B型)	FY2023～ Ph I		約1,800名		
ムコ多糖症VII型 (スライ症候群)	TBD	数名程度	約200名	TBD	約98億円
GM2ガングリオシドーシス	～FY2025 Ph I	約30名	TBD	TBD	TBD
ボンベ病	TBD	約80名	約10,000名	約30億円	約1,100億円

※1 患者数：厚生労働省班研究等の公開情報を元にJCRで算出

※2 市場規模：JCR調べ

Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Business 16

あと、一つ目のライソゾーム病の開発、パイプラインになりますが、基本戦略としては世界で数千人いるような疾患においては、パートナーとの協業をメインに考えています。基礎疾患と一口に言いましても、世界で数千人いる疾患と数百人しかいないものとあります。数百人しかいないものをウルトラオーファンという言い方をしますけれども、そういったものは自社開発の可能性もあるかもしれません。ですが、われわれの基本方針としましては、パートナーと協業してグローバルでの臨床開発、販売を、行っていきたいと思っています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



J-Brain Cargo®技術の展開により

多様な疾病領域に貢献する  
マルチモダリティイノベーターへ



Copyright © 2022 JCR Pharmaceuticals Co., Ltd. All rights reserved.

Business 17

そして技術の横展開、他のものへの適用ということになります。

こちらは先日の R&D 説明会でも少し紹介しましたように、非常に有望なデータを既に得ております。こういった新しい技術をマルチなモダリティに生かすことで、マルチな疾患領域に入っていける。そこでも JCR の得意分野は、そこは希少疾患であり、ライソゾーム病になるんですが、それ以外の領域の疾患にも十分使えるのが、新しいモダリティですし、新しい技術ということになりますので。そこに浸透していく際には、先ほどと同じく協業をベースにしてやっていこうと思っています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

目指すべき姿 RD・E・S・Gを基盤とする事業活動を通じたサステナビリティの実現			
 <b>Rare Disease</b>	 <b>Environment</b>	 <b>Society</b>	 <b>Corporate Governance</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンメットメディカルニーズへの挑戦と、研究開発の加速</li> <li>社内・社外における認知度向上に向けた取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TCFD提言に沿った情報開示</li> <li>建設中新工場における環境保全に向けた取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「男女の区分なく」、子育てと仕事が両立しやすい職場環境</li> <li>人財育成のための研修制度の充実化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プライム市場企業としてのガバナンス体制の構築</li> <li>取締役会の実効性向上</li> </ul>
医薬事業を通じた貢献		「チームJCR」の総力を結集した事業活動の質的・量的な「変革」による <b>「希少疾病とともに生きるあなたに寄り添う医療の実現」の加速</b>	



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index

### 2022年3月31日、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index構成銘柄に選定

グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellにより構築されたFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスで、セクター・ニュートラルとなるよう設計されています。また低炭素経済への移行を促進するため、特に温室効果ガス排出量の多い企業については、TPI経営品質スコアにより改善の取り組みが評価される企業のみを組み入れています。

最後になりますけれども、サステナビリティの取り組みを少し紹介させていただきます。

弊社は、皆さんご存じのとおり Rare Disease に特化しておりますので、まずこの Rare Disease 領域で患者の皆様にご貢献をすることが、大きな ESG の中の一つだと捉えています。

それに加えて、エネルギーですとか、もしくは社員の皆さんが働きやすい環境ですとか、そういった ESG のところ、ここに書いてあるようなことにも、より注力をしてサステナビリティの取り組みを強化してまいります。

#### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## 最終年度、それ以降の新たな目標と課題

- ▶ グローバル開発の経験と知識を最大限に活用し、製品価値の最大化を図る
- ▶ J-Brain Cargo®技術の価値最大化ができるパートナーとの提携により新たな経営基盤を確立させる
- ▶ 2021年度に得られた収益から、将来を見越した投資を実施することで持続的な成長を実現する
- ▶ 「チームJCR」の企業文化を発展させ、中長期的な企業像にあった適正な人員規模、組織体制への転換と、人財育成・確保に取り組む

これが最後のスライドになります。中期計画最終年度として、新たな目標と課題ということでここに挙げております。

グローバル開発の経験といいましても、JR-141 が初めての経験になりますので、まだたくさんの経験があるわけではないですが、少なくともそこで得た経験を 171 以降の開発品目にも、最大限に生かしていきたいと思っています。そうすることで、171、441、446、476、その他に続く品目の製品価値の最大化を図ってまいります。

そして、J Brain Cargo 技術、この技術の価値も最大化できるように、ライソゾーム病もしくはそれ以外の領域に関しても、パートナーとの提携を積極的に進めていきます。

また、2021 年度に得られたワクチン事業も含めてですけれども、収益から将来を見越した研究開発もしくは製造分野、こういったところに投資をすることで、将来の基盤を築きたいと思っています。

これらの基盤を築く上で重要なのは「チーム JCR」の企業文化ですし、それに合った組織体制、そして何より重要なのが人財育成だと思っていますので、そこにも積極的に投資をして、取り組んでいきたいと考えております。

私からは以上になります。ありがとうございました。

[了]

### サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

---

## 脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載

---

## サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

